

「僕とハグしましょう！ ～HIV陽性者の挑戦～」

朗読者 今村敦子

熊本でコンビニの店長をつとめる齋藤忠明さんは、HIV陽性であることをカミングアウトし、以前と変わらず働いています。2017年に行われたイベントで、ある行動を起こしました。「HIV陽性」と大きく書いたタスキを着け、「フリーハグしましょう」と書いたプラカードを持ち、会場に立ったのです。すると、次々に来場者が歩み寄り、ハグを求めて来ました。

10 齋藤さんがHIVを隠さないのは「堂々とカミングアウトして、HIV陽性であっても、みんなと同じように生活できることを証明したい」と考えているからです。

HIVウイルスは感染力が弱く、性行為や、医療現場での針刺し事故などが無い限り、普段の生活で人から人へ移ることはありません。また、感染しても今は薬で発症を防ぐことができます。しかし、今でも誤った認識が、誤解や偏見を生み、感染したことを隠す人が多いことも事実です。それは、恋人が出来なくなったり、仕事を辞めざるを得なくなるなどの差別を恐れてしまうからです。今は早期治療で、感染前と変わらない生活ができるにも関わらず、誰にも言わずに検査に行かないために発見が遅れ、発症する人も少なくありません。福岡市内の各区にある、保健福祉センターでも匿名で検査

を受けられます。検査は無料で、予約無しで受けられるセンターもあります。

25 先ほどの斎藤さんの元には、カミングアウトしてから、「自分にとっての忠明さんは変わらない」「H I V について、もっと知りた
い」という温かい応援も相次いでいます。H I V への理解は、以前よりかなり進んでいるようです。H I V に対する理解がより一層広が
り、誰もがH I Vに関する正しい知識を持つことが大切です。感
染してもそのことを隠さずに、これまで通り生活できる社会にして
いくことが必要なのです。